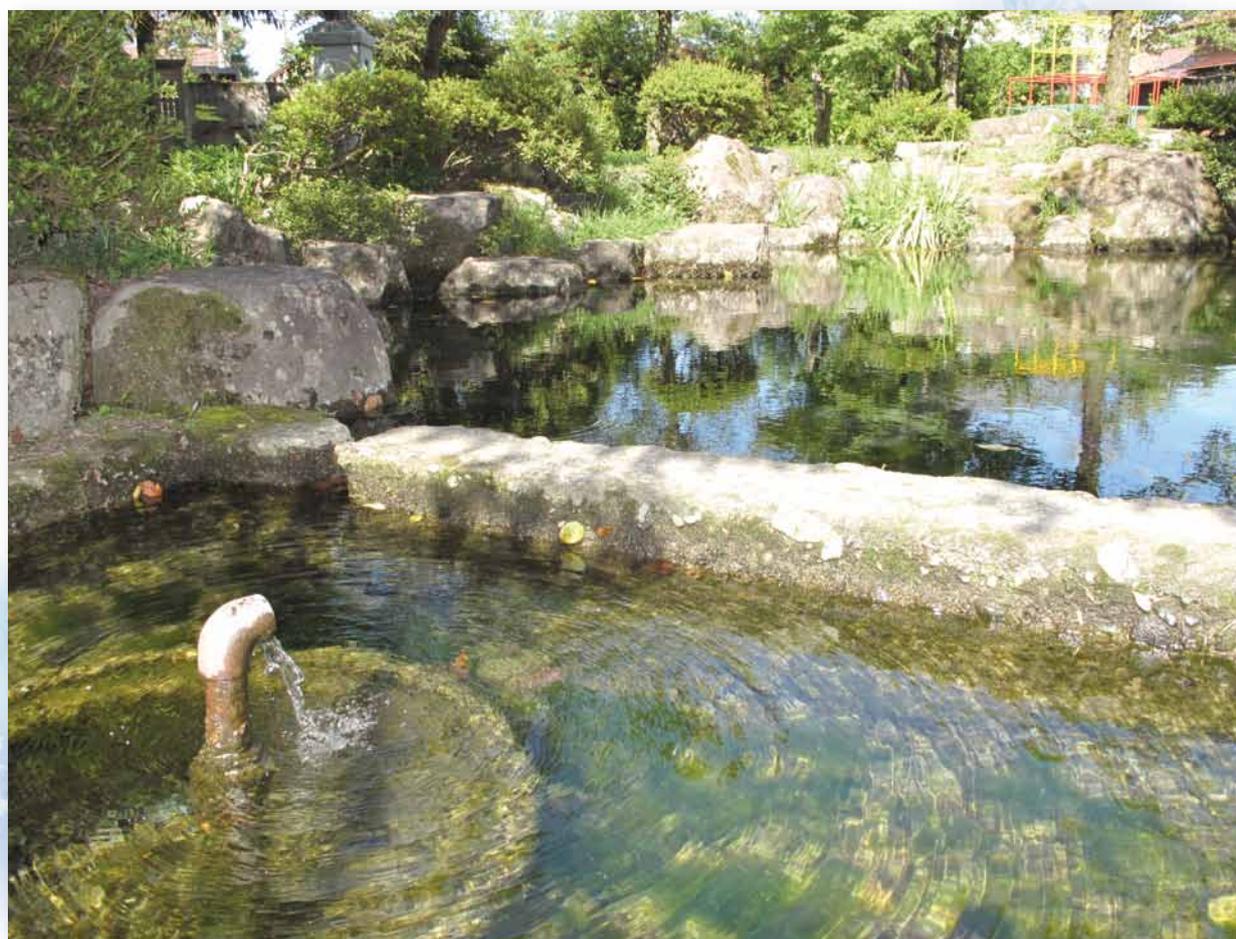


本願清水イトヨの里開館10周年記念

湧くわく水サミット in 越前おおの

「湧水文化の再生～ふるさとを知り、ふるさとを創る～」

「越前おおの」の湧水



福井県大野市

清水（しょうず）

大野市内には、国指定天然記念物で平成の名水百選に選ばれた本願清水や、昭和60年に環境庁の名水百選に選ばれた御清水など、多くの湧水地があります。大野では湧水のことを「清水（しょうず）」と呼び、今でも市民に親しまれています。

1 本願清水（ほんがんしょうず） 糸魚町

天正元年（1573）に越前を支配した朝倉氏が滅亡した後、織田信長の部将である金森長近が大野郡を統治し、亀山とその麓に越前大野城を構築し、その東側に、短冊状の区割りを持つ城下町を建設しました。その際、水量が豊富であった本願清水の湧水を市街地まで導き、生活用水や防火用水として利用したといわれています。名前の由来は、昔この近くに本願寺派の寺があったからとか、本願寺派の門徒を使って掘り広げられたからとも伝えられています。“名水のまち越前おおの”を作り上げた原点がここにあります。



湧水池は、国内の淡水型イトヨ生息地の南限として昭和9年に国の天然記念物に指定され、平成13年7月には淡水型イトヨを市の貴重な財産として保護及び活用することにより、大野の水文化を発展継承することを目的に、清水の脇に「本願清水イトヨの里」が開館しました。また、平成20年には平成の名水百選にも選ばれています。

写真 昭和10年代の本願清水

写真は現在の磐座神社境内から西に向かって撮影されたものです。中央に標柱が建てられており、その右側にある高札は、説明板と思われます。標柱の後ろには、木製の橋が架けられており、写真左下には文部省と書かれた石碑が写っています。

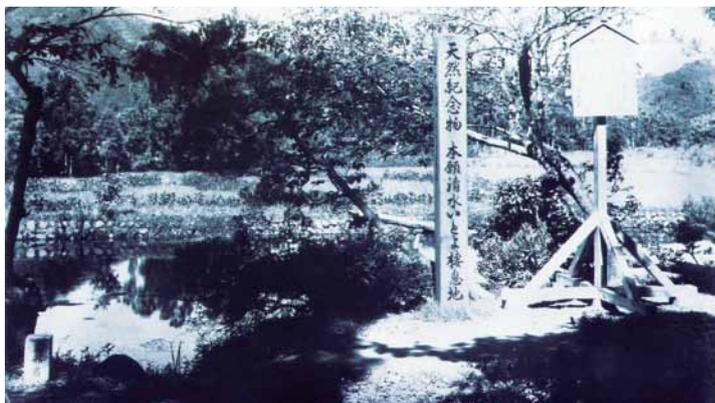
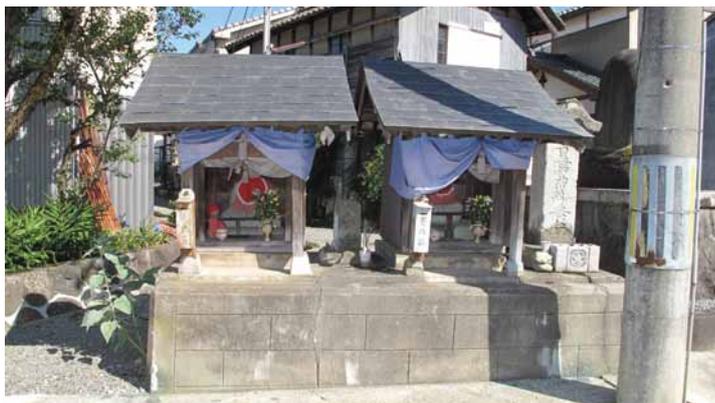


写真 乳出し地蔵

元は本町通りにありましたが、夢のお告げによって本願清水に移されたといわれています。母乳の出ない人がお参りして一食分の白米を白い布に包み本願清水に七日間つけておき、そのお米でおかゆを炊いて食べると乳が良く出るようになるといわれています。



2 御清水 (おしょうず) 泉町

御清水は、亀山の東麓の湧水帯にある清水の一つで、かつて城主の飯米をかしぐ（炊ぐ）のに用いられたことから、敬意を表して「御清水」あるいは「殿様清水」と呼ばれており、昭和60年に環境庁の名水百選に選ばれています。

御清水があるこの一帯は、江戸時代から武家屋敷が建ち並び、家中の人々が生活用水として御清水を使っていました。武家屋敷の人々はしつけも厳しく、常にこの清水を清潔に保ち、上流から順番に飲料水、果物などを冷やす所、野菜などの洗い場などと定めて使っており、この名残が、現在も不文律として地域の住民たちに受け継がれています。

また、泉町と呼ばれるこの一帯は、江戸時代の初期には「白清水」という町名だったようで、この付近一帯の民家の庭には必ずといっていいほど湧き水の泉水がありました。



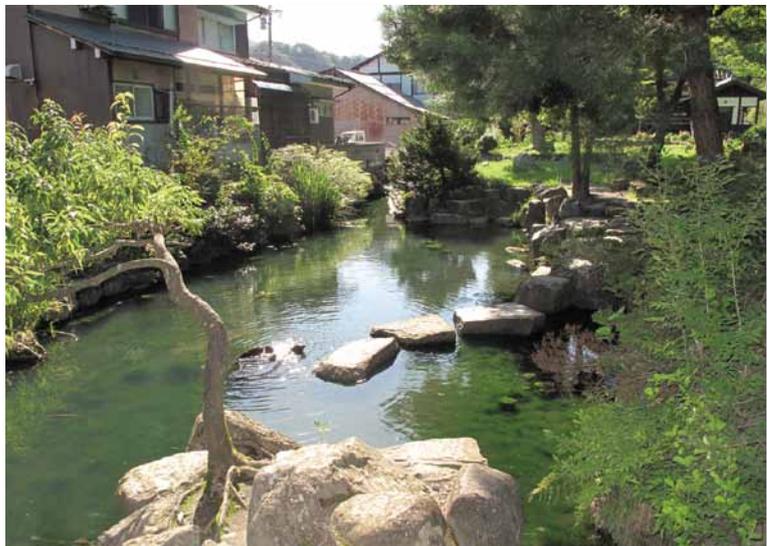
昭和初期の御清水『大野紹介写真帳』より

3 お馬屋池 (おうまやいけ) 城町

江戸時代、大野藩の馬場や厩があった所で、この名が付いています。

大きな木の根をくり抜いた臼が使われています。また、江戸時代の絵図を比較すると西側の大半は埋められてしまっているようです。

明治45年(1912)にこの地へ柳廼社が移転して、神社の境内となりました。



4 新堀清水 (しんぼりしょうず)

泉町

亀山の北側を流れる新堀川沿いに湧く清水です。新堀川は、金森長近が越前大野城の外堀として掘られたものといわれています。

新堀川には、今でもイトヨがわずかに生息しています。また、環境省や県の絶滅危惧種であるナガエミクリ (ミクリ科の維管束植物) の生息地としても知られています。

蛸橋の地名なども残っており、特にホタルが多く見られる所だったようです。

※写真は、新堀川



5 義景清水 (よしかげしょうず)

泉町

大野市役所の西側に位置している清水です。近くに戦国大名朝倉義景の墓があることからこの名が付いたと考えられます。

墓所の周辺は、公園化されており、公園の整備の際に、一度埋められた臼が再び掘り出され、きれいな水が湧き出しています。湧水の量により、イトヨの姿を見ることができます。



写真 朝倉義景墓所

天正元年 (1573) 織田信長に敗れた朝倉義景は、大野を本拠としていた一族の朝倉景鏡を頼って落ちのびてきましたが、景鏡に裏切られ、六坊賢松寺で自害したといわれています。五輪塔は、花倉家が寛政12年 (1800) に曹源寺境内に建立したものを文政5年 (1822) になって現在地に移したもので、近くには家族や家臣の墓もあります。



6 こせき清水(こせきしょうず) 泉町

御清水から西へ歩いて約三分の所にあります。その昔、行基菩薩が鉤掛の洪泉寺への行脚の途中、のどの渇きを覚え、杖の先で地面を掘られ、湧き出した水を飲まれたのが始まりと伝えられています。弁財天をかたわらに祀っており、現在は、白に蓋がかぶせられています。



7 山王神社の堀(さんのうじんじゃのほり) 日吉町

旧城下町の東側に位置する日吉山王神社境内にある堀です。この神社は中世から戦国時代まで「亥山城」または「土橋城」と呼ばれた城があったといわれる所で、堀はその名残といわれています。

この神社の周囲には、江戸時代、鉄砲場清水や宮ノ後清水、山王北ノ清水と呼ばれる清水がいくつもあったようです。



8 弥生公園の清水跡(やよいこうえんのしょうずあと) 弥生町

市街地の東側に位置するこの清水跡は、江戸から明治にかけて面谷銅山から採掘した銅鉱石を精錬した吹所(精錬所)があった場所です。この場所にあった清水は、精錬の際に使われていたようですが、現在は枯れてしまい、清水も埋められてしまいました。



9 篠座神社の御霊泉 (しのくらじんじゃのごれいせん)

篠座

養老元年(717)創建と伝えられる篠座神社境内の一帯が湧水地となっています。特に拝殿北側にある弁天池の白から湧く清水は、眼病によく効くといわれ「篠座目薬」と呼ばれたほどで、遠くから水を汲みに来る人もいました。

また、大国主命が湧かせたという伝説も残っており、この弁天池には牛ヶ原の三社神社の弁財天が合祀されています。江戸時代の干ばつ時には、尾永見・上大門・下大門の人々が、雨乞い踊りを続けながら神社まで参拝に来たといわれています。



雨乞い踊り (市指定無形民俗文化財)



昭和初期の弁天池

10 馬清水 (うましょうず)

篠座

国道158号の南側、奥越ふれあい公園の北西側に位置しています。明治中期に大野町の有志、尾崎琴洞、尾崎安成、布川正廣らがこのあたりを開田したとき、灌漑用の溜池として掘られた清水で、大野市有終南小学校の近くに、彼らの業績を讃えた開田碑が残っています。

当時、ここで馬を洗ったり、夏には馬を泳がせたりしたので、この名前が付いたといわれています。現在は、清水がここ1カ所しか残っていませんが、以前は3カ所あったようです。



11 殿様清水【とねき沢公園】(とのさましょうず【とねきざわこうえん】)

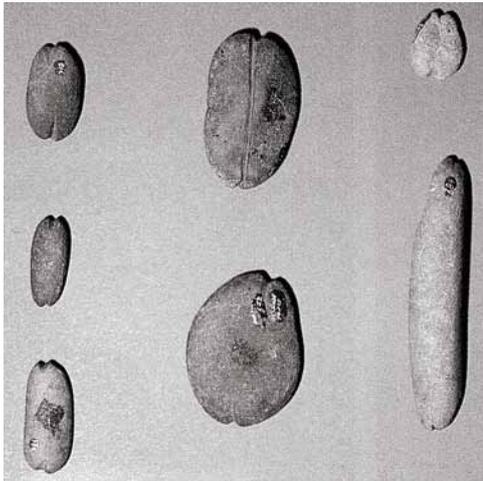
右近次郎

市街地の南側、住宅団地にあるとねき沢公園の清水です。伝説では、昔、朝倉義景が織田軍との戦に敗れて大野に逃れてきた際、この辺りに出くわしました。しかし、この辺り一帯は、沼地でだんだんと沈み込み、最後には清水に沈んでしまったというので「殿様清水」と呼ばれています。また、元旦には馬の鞍が浮かんで見えるともいわれています。



右近次郎遺跡 (縄文時代)

とねき沢公園は、昭和49年に発掘調査された右近次郎遺跡を一部保存するために造られました。右近次郎遺跡は、縄文時代前期から後期まで続いた遺跡で、住居跡や竪穴などが見つかっています。そのうち3棟の住居跡からは、川原石を使用した石囲炉(いしがこいろ)が見つかっています。多くの縄文土器のほか、漁で使用したと考えられる石錘(網につける石のおもり)なども見つかっています。



石錘(網につける石のおもり)



川原石を使用した石囲炉

写真 化物清水跡

殿様清水(とねき沢公園)の北側、約100メートルのところにあります。朝倉氏の家来が戦に敗れて逃げて来た時に、この深みに入り死んだので、夜な夜な、泣く声やら亡霊が出たことからこのように呼ばれるようになったそうです。

※『奥越前の昔ばなし』より



12 ふくべ清水 (ふくべしょうず) 春日

市街地の南東側に位置する清水です。昔、この辺りを開田する際に、小さな泉を水田灌漑用に掘り下げているうちに、だんだんと瓢箪のような形、ふくべ、瓢箪の形になったので、誰言うとなく「ふくべ清水」と呼ぶようになったそうです。



13 中荒井の清水 (なかあらいのしょうず) 中荒井

市街地北部に位置する中荒井の清水は、昭和40年代まで洗濯場などに使われていました。湧水が豊富なときは、バイカモなどが見られ、イトヨも生息していました。清水の近くにある橋は「糸魚橋」の名称が付けられています。



14 中野清水 (なかのしょうず) 中野

市街地の北側に位置する中野清水は、かつて「東川の清水」とも呼ばれ、洗濯場や水遊び場として親しまれていました。昭和40年代以降、生活排水が流れ込み汚泥が堆積するようになりましたが、平成8年に地元有志が中心となり清掃作業が行われ、湧水が確認されました。以後「中野清水を守る会」により、きれいに管理されています。

また、公園整備後にイトヨが放流され、現在もイトヨの生息が確認されています。



15 木本薬師堂の霊泉(このもとやくしどうのれいせん) 木本

大野盆地南部に位置する木本地籍にある清水です。木本薬師堂の伝説によると、この清水は継体天皇により発見され、その後薬師如来が祀られたといわれています。

また、江戸初期の松平木本藩があった時に、松平但馬守直良がこの清水で目を洗ったところ、またたく間に眼病が治ったと言い伝えられており、薬師堂は古くから人々の信仰を集め、現在も多くの絵馬が残されています。



木本薬師堂

16 阿難祖地頭方の清水(あどそじとうほうのしょうず) 阿難祖地頭方

大野盆地南西部に位置する阿難祖地頭方集落の南側にある清水です。清水の近くには、近年整備された池があります。



17 みくら清水(みくらしょうず) 犬山

亀山の西側に位置する犬山（標高324m）の北側の麓にある清水です。伝説では、犬山に戌山城があったころ、城の水源として利用され、一日に朝昼晩の三度（三くら）水を汲みに降りてきたことから、こう呼ばれるようになったといわれています。

戌山城は、室町時代の初めに造られたといわれており、最初、室町幕府の重臣、斯波氏の居城でしたが、その後朝倉氏の居城となり、最後は、金森長近が城主となりました。



戌山城跡(越前大野城から撮影)



戌山城本丸跡

18 坂戸の白水(さかどのにごし) 牛ヶ原

大野盆地の北西部にある花山峠近く、国道158号沿いにある清水です。

伝説によると、昔、坂戸は水の少ない村でした。ある時、乞食の坊さん(弘法大師)が、ある家で水を請うたが、水の足りない所なので、米のとぎ汁を出したそうです。それ以来、坂戸の水は白く濁ったといわれています。



19 伊月の湧水 (いつきのゆうすい)

伊月

JR九頭竜湖駅から福井和泉スキー場に向かう途中の石徹白川の対岸、伊月地区にあります。

大野市に合併される前の和泉村が、この湧水を利用して、勝山市の酒造会社の協力により吟醸酒「穴馬紀行」を村限定商品として企画、販売していました。



20 蝶の水 (ちょうのみず)

上半原

「暴れ川」と恐れられてきた九頭竜川、その源流の一つに「蝶の水」と呼ばれる小さな湧水があります。蝶の水は、大野市の東に位置する油坂峠の頂上にあります。旧美濃街道の峠越えとなるこの場所で昔、旅人が渴きを癒やそうと岩をどけたところ、湧水からたくさんの蝶が飛び立ったことからいつしか「蝶の水」と呼ばれるようになりました。また、峠の頂上にある水、頂の水が変化するという説もあります。



油坂峠の様子



峠への登り口(峠まで徒歩約15分)

【参考文献】

- | | | |
|----------------|-------|------------|
| 『特別展 水の民俗解説図録』 | 平成 8年 | 大野市歴史民俗資料館 |
| 『大野の湧き水 おしょうず』 | 昭和63年 | 大野市役所 |
| 『大野市史 図録文化財編』 | 昭和62年 | 大野市役所 |
| 『奥越前の昔ばなし』 | 昭和59年 | 大野市文化協会 |
| 『大野のあゆみ』 | 昭和43年 | 大野市役所 |

清水マップ

